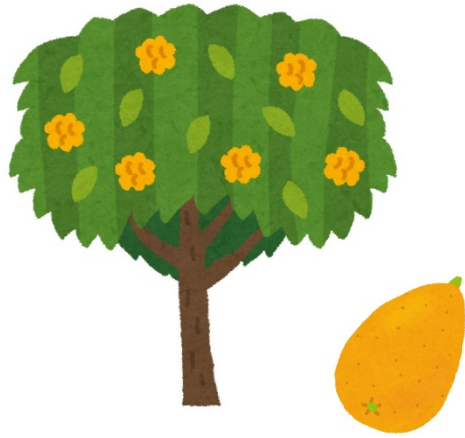


枇杷の実が落ちると、甘酸っぱいにおいが立ち込めます。初夏の風物詩で、昔は無花果とともに庶民の果物でしたが、最近は高級な果物として扱われています。枇杷の芽が出たので庭に植えようとしたら、年寄りにたしなめられました。

「庭に枇杷を植えると病人が出る」



「枇杷と桃 葉ばかりながら暑気払い」

という川柳があるそうです。実はおいしいけれど、それ以上に葉に暑気払いの薬効が秘められているというのです。種にもアンズと同じ痰きり・せき止めの作用があります。枇杷の葉療法・温灸も知る人ぞ知る不思議な効果を持っている治療法です。枇杷が嫌われたのは、むしろ、病人が薬効を求めて、樹の周りに葉を取るために集まるからではないかと思います。昔は薬王樹と呼ばれていたのですから。



中国漢方では、肺と胃の熱を取り清める、とされています。乾燥した暑い所に長くいると、少量の切れにくい痰をともなったせきに悩まされます。せかせかした生活をして辛いものを長く食べ過ぎると、胃が焼けるような不快感が出て時には胃液が上がってきます。苦い口臭も気になります。いずれも舌の赤味が強く表面の湿り気が足りなくなります。枇杷の葉を煎じたりお酒に漬けたりして服用します。大切な事は、葉の毛を歯ブラシのようなもので擦り落とすことです。そうしないと絨毛でかえってせき

が出ます。(心配なら木綿の袋に入れて煎じます)若い葉よりしっかりした厚い葉が良く、表を軽く炒って使います。

苧谷漢方薬局（上毛新聞より）